

参考:プラスチック耐薬品性一覧

	種類	薬品名	PP ポリプロピレン	PE ポリエチレン	POM アセタール樹脂	LCP 液晶ポリマー	英名
	◆:有機溶媒 ◇:無機溶媒		ダイヤモンドチップ CPチップ部分 ディストリマン (バレル部)	CP100のピストン CP250のピストン ディストリマン (ピストン部)	CP1000のピストン	CP10のピストン CP25のピストン CP50のピストン	
ア	◆ ◆ ◆	アセトン アニリン アセトニトリル	△ △ ○	△ △ ○	△ — △	○ △ △	Acetone Aniline Acetonitril
イ	◆ ◆	イソブチルアルコール イソプロピルアルコール	◎ ◎	◎ ◎	△ △	— —	Isobutyl alcohol Isopropyl alcohol
エ	◆ ◆ ◆ ◇ ◇ ◇	エタノール エチルベンゼン エチレングリコール エチレンジアミン 塩酸(38%、室温) 塩酸(20%) 塩酸(25%)	◎ △ ◎ ○ ◎ ◎ ○	○ × ◎ ○ ◎ ◎ ○	— — ○ — × × ×	— — ◎ — × ○ ○	Ethyl alcohol Ethyl benzene Ethylene glycol Ethylene diamine Hydrochloric acid
オ	◇	王水	△	×	×	—	Aqua regia
キ	◆ ◆	濃酢酸 キシレン	◎ △	◎ ○	— ○	— △	Formic acid Xylene
ク	◆ ◆	グリセリン クロロホルム	◎ ×	◎ ×	— —	— ×	Glycerin Chloroform
サ	◇ ◆ ◆ ◆ ◆	酢酸(100%、室温) 酢酸イソプロピル 酢酸エチル 酢酸ブチル	△ △ △ △	△ △ △ △	— ○ — —	△ — ○ —	Acetic acid Isopropyl acetate Ethyl acetate Butyl acetate
シ	◆ ◆ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◆	ジエチレングリコール ジメチルホルムアミド 硝酸(10%、室温) 硝酸(10%、70℃) 硝酸(30%、室温) 硝酸(30%、70℃) 硝酸(61.3%、室温) 硝酸銀 ジメチルスルホキシド	◎ △ ◎ ○ ○ △ △ ◎ ◎	◎ △ ◎ ◎ ○ △ △ ◎ ◎	— × △ × × × × ○ ×	— ○ △ — — — — — ×	Diethylene glycol Dimethyl formamide Nitric acid Silver nitrate DMSO
ス	◇ ◇ ◇	水酸化アンモニウム(アンモニア水) 水酸化カルシウム 水酸化ナトリウム(30%、室温)	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	— ◎ —	◎ — —	Ammonium hydroxide Calcium hydroxide Sodium hydroxide
テ	◆	テトラヒドロフラン	△	×	×	△	Tetrahydrofuran
ト	◆ ◆ ◆	トリフルオロ酢酸(TFA) トルエン トリクロロエチレン(トリクレン)	○ △ △×	○ △ △	× ○ ×	○ △ ×	Trifluoroacetic acid Toluene Trichloroethylene
ニ	◆	ニトロベンゼン	△	×	×	—	Nitrobenzene
フ	◆ ◇	ブチルアルコール フッ化水素酸(フッ酸)	— ◎	○ ◎	— —	○ —	Butyl alcohol Hydrofluoric acid
ヘ	◆ ◆ ◆	ヘキサン ベンジン ベンズアルデヒド	△ △ △	× △ △	— — —	— — —	Hexane Benzine Benzaldehyde
ホ	◆	ホルムアルデヒド(40%、室温)	◎	○	—	—	Formaldehyde
メ	◆ ◆ ◆	メチルアルコール メチルエチルケトン メチルイソブチルケトン	○ △ △	○ △ △	△ × —	◎ △ —	Methyl alcohol Methyl ethyl ketone Methyl isobutyl ketone
リ	◇ ◇ ◇ ◇ ◇	硫酸(30%、室温) 硫酸(30%、70℃) 硫酸(98%、室温) リン酸(50%、70℃) リン酸(75%、室温)	◎ ◎ △ △ ◎	◎ ○ △ ◎ ◎	○△ △ × △ —	◎ — × — ×	Sulfuric acid Phosphoric acid

注1: 耐性マーク

この表は、原料となるプラスチックメーカーからの情報を元に作成した参考資料です。pHや温度などの条件によっては、この表と異なる結果になる場合がありますので、参考データとしてご使用下さい。

◆有機溶媒について

(試料を室温で48時間浸漬して重量変化率を測定して分類)

◎:重量変化率……10%以下 △:重量変化率……31~100%
○:重量変化率……11~30% ×:重量変化率……101%以上

◇無機溶媒について

(試料の外観の変化、液の汚染程度、および物性的変化を重視して分類)

◎:まったく、あるいはほとんど影響ない △:なるべく使わないほうが良い
○:若干の影響はあるが条件により十分使える ×:著しい影響があるため使用に適さない

注2: ビベットによる分注操作と耐性マーク

通常のビベットングではチップ内に溶媒がある時間として、おおよそ10秒程度です。従いまして、◎、○の溶媒はもちろんのこと、△の溶媒も用途によっては、分注することに問題はないと考えられます。しかし、△の溶媒では、プラスチックから成分の溶出なども考えられますので、ご注意ください。